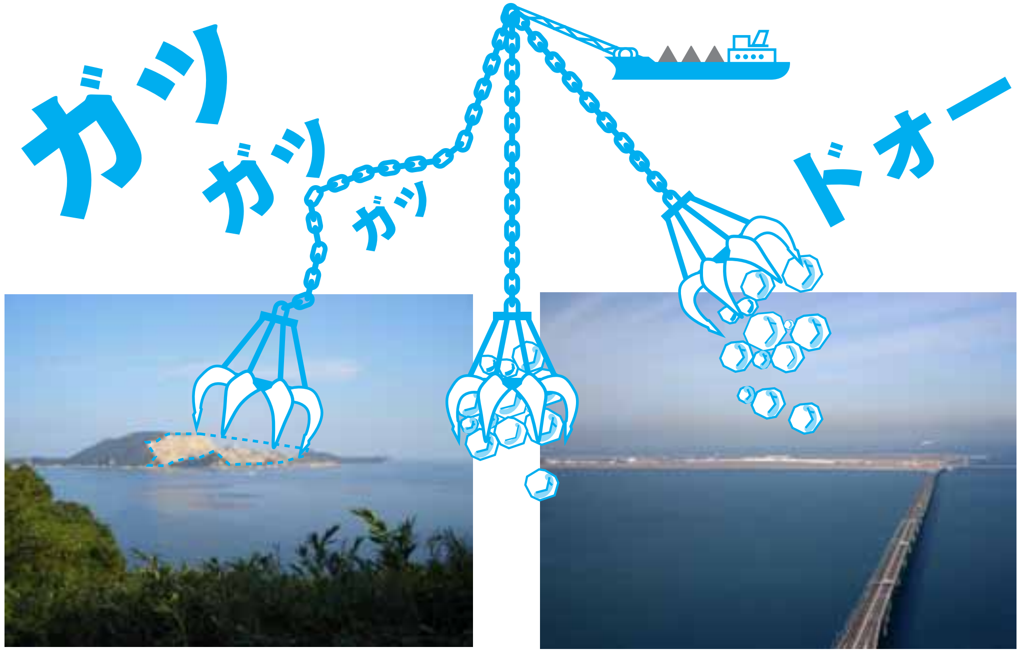
関空をつくった島がある

僕らが刺激を求めて海外へ向かう際、頻繁に利用するのが関西国際空港だ。1994年に開港した関空は大阪湾の泉州沖約5kmに埋め立てられた人口の島であり、その埋め立には大量の石材が必要だった。その石材の多くが採掘され、運ばれてきたのがいえしま（家島群島）である。特に群島の中の一つの男鹿島は元来の地形がダイナミックに変わってしまうほどの石材が採取されてきた。採取された石材は「ガット船」（石の積み下ろし用のクレーンとの巨大な爪を搭載した船）で埋め立て地まで運搬された。僕らが目にする関空は陸上に顔を出した表面の一部分のみで、その下には海底までいえしまから運ばれた途方もない量の石材が存在するのだ。まさにいえしまは「関空をつくった島」と言うことができる。



男鹿島

関西国際空港

いえしまには「刺激」がある

「刺激的な世界への玄関口である関空」をつくった島。そんないえしまを僕らが訪れて驚いたことは、いえしま自体が「刺激的な島」であったことである。いえしまにはいくつかの主幹産業が存在しているが、それらは僕らにとって刺激的なものばかりだった。だから今回僕らは家島本島と男鹿島を歩き回って、主要な5つの産業に関する風景を写真に収めた。そして、それらの中から「刺激的」な写真を選び出した。

採 石 業

座りたい

転がしたい

操作したい

石の上に乗りたい

荷台に乗りたい

近づきたい

すくい上げたい

叫びたい

採石業は、山に発破をしかけ、爆発させることによって岩石を採取する。採取した岩石は、土木建築用材、工業用原料などとなる。